

緑のしるべ

～冬号～

令和2年12月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター
稲敷市江戸崎甲541（稲敷合同庁舎内）
TEL 029（892）2934
FAX 029（892）6684

スマート農業機械実演会を開催しました



収益性の高い稲作経営を確立するため、茨城モデル水稻メガファーム事業では担い手への農地の集積・集約化と併せて、ロボット技術やICT等の先端技術の導入を支援しています。

10月28日、稲敷市八千石の水田を会場に、茨城県県南農林事務所・茨城県農業総合センター共催で「ロボットトラクタ」「自動運転田植機」「農業用ドローン」等、農業に関わる先端技術についての実演会を開催し、生産者・関係機関あわせて151名が集まりました。ロボットトラクタと有人トラクタの協調作業は水稻メガファーム事業の実証農家でも試験的に導入されており、作業効率の向上効果が確認されています。実証農家からも農作業の効率化の手応えがあり、大規模化には必要な技術と感じているという感想がありました。

普及センターでは栽培技術のほか、経営体に適した先端技術導入の提案などにより、水稻農家の効率的な経営の支援を行っていきます。

令和2年産米を振り返る

【生育と気象について】(図)

平均気温は、4月は平年より低く、5月以降7月上旬までしばらく高温で推移しました。7月中下旬に一時低温となりましたが、8月以降は再び高温となりました。

一日あたりの日照時間は、4月は平年より長く、5月は平年並となりました。6月上中旬は平年より長いものの、6月下旬以降寡照となり、7月は平年の3割程度となりました。梅雨明け以降は晴天が続き、8月は平年より6割ほど長くなりました。

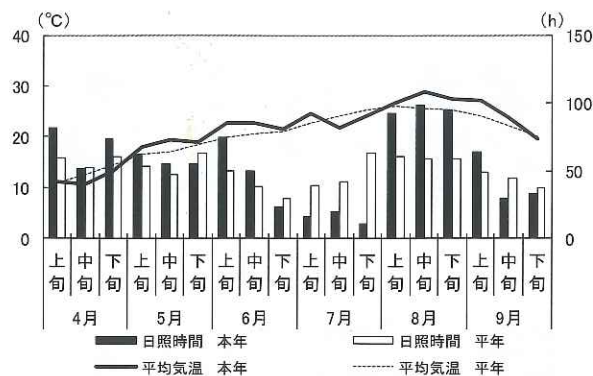


図 旬別の平均気温と日照時間の推移(平年:1981-2010)

【生育と収量・品質】(表)

「あきたこまち」の出穂期は平年より3日早く、成熟期は1日遅くなりました。「コシヒカリ」は出穂期が平年より4~6日遅れましたが、8月からの高温により成熟期は1~3日遅くなりました。

「あきたこまち」は幼穂形成期~出穂期の日照不足により平年に比べ籾数が少なく、千粒重が軽くなり、低収となりました。「コシヒカリ」は出穂以降の多照により平年に比べ登熟歩合が向上し、平年並~多収となりました。

また、本年は斑点米カメムシ類の発生が多く、斑点米による玄米の等級低下だけでなく、出穂が遅い飼料用米や加工用米では、出穂直後の吸汁被害による収量低下も発生しました。出穂前後でカメムシ類が多発している圃場は、主食用米だけでなく飼料用米等でも防除を実施しましょう。

表 令和2年産米の生育及び収量

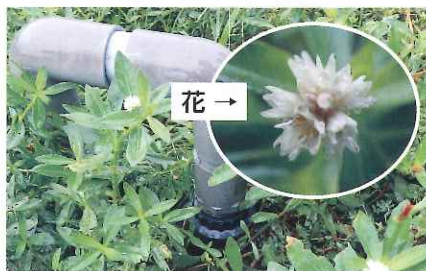
品種	場所	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂籾数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
あきた こまち	稲敷市	本年 5/1	7/14	8/24	96.3	18.4	423	82.4	81.5	20.5	533
	下須田	平年 4/28	7/17	8/23	90.9	18.6	418	86.3	81.8	21.2	621
コシ ヒカリ	稲敷市	本年 5/3	7/31	9/5	91.9	19.4	394	78.2	81.4	20.4	545
	浮島	平年 5/5	7/27	9/4	91.0	19.2	439	82.4	67.2	21.0	531
	龍ヶ崎市	本年 5/23	8/11	9/18	99.9	17.9	388	82.7	62.5	21.0	526
	長峰	平年 5/15	8/2	9/12	97.9	19.6	430	84.7	62.0	21.4	462
	美浦村	本年 5/8	8/5	9/9	100.5	16.1	349	75.5	87.9	20.4	614
	舟子	平年 5/7	7/31	9/6	89.0	19.2	409	83.9	66.7	21.3	483

※平年はH27~R1の平均

【主食用米から戦略作物への 転換を図りましょう】

主食用米の需要は年々減少しており、米価も下落傾向にあります。一方で、飼料用米、輸出用米、加工用米、園芸作物等には需要があるため確実な販売が見込めるうえ、飼料用米等は手厚い助成を受けられることから、安定した収入確保に繋がります。各種助成を活用し、飼料用米・加工用米等の生産・販売に取り組み、経営の安定化を図りましょう。

【特定外来生物ナガエツルノゲイトウに注意！】



ナガエツルノゲイトウは南米原産の多年生植物で、特定外来生物に指定されています。最近、稲敷市や河内町の新利根川流域畦畔でも発生が確認されました。節から発根するため再生力が非常に高く、圃場内に侵入すると防除が大変困難です。刈払機での防除では個体数を増やす恐れがあるので、手取りや除草剤で増殖を防ぎましょう。

女性農業士と調理師の卵が交流しました



10月22日に稲敷地域女性農業士会が「いなしき食農交流ミニフォーラム」を開催しました。今年は、牛久市のつくば栄養医療調理製菓専門学校の特科調理師学科22名を対象に、「れんこん」の特性や部位に応じた調理方法の紹介を行いました。また、酢ばす、れんこんサラダ、こんこん汁の作り方を教え、出来上がった料理を食べながら交流し、稲敷地域女性農業士会が作成した「れんこん紙芝居」を披露しました。

学生たちからは、「れんこんも部位によりおすすめの調理法があることは知らなかった」「料理のバリエーションが増えた」などの感想が聞かれ、食材としてのれんこんの魅力をPRする良い機会となりました。

阿見町かんしょ生産の取り組み

阿見町では、増加する遊休農地対策として昨年度からかんしょトッパー産地拡大事業を活用し、新たな輪作体系に「かんしょ」を推奨品目として位置づけ、作付けを推進しています。

収穫を前に、9月30日に先進地事例研修としてJAなめがたしおさい甘藷部会連絡会の選果・選別方法等を学ぶとともに、10月13日には儲かる農業ステップアップ事業で導入した収穫機の実演会を開催しました。今年は7月の曇雨天、8月の猛暑により芋の肥大不足等が懸念されましたが、実演会を開催した圃場の作柄は肥大、品質とも良好で、翌日から出荷が開始されました。今後は、かんしょの収益性や技術的な課題、改善方法について検討していきます。



青年農業士が技術研修会を開催しました



11月6日に稲敷地域青年農業士会が「ドローン活用及び作業効率改善研修」を開催し、規模拡大を考える青年農業士18名が参加しました。

ドローン活用研修では、エアージェンサポートの大塚氏より、ドローンを使用する際の注意点や農業分野の活用についての講話と、現地ほ場でのドローン操作実習を行いました。また、作業効率改善研修では、(株)れんこん三兄弟の宮本氏より、生産性向上を目的としたコンサルティング導入や、効率的な出荷ラインの構築に関する事例について学びました。

参加者からは「ドローンの有効性を学ぶことができた」「自分の作業体系を見直してみたい」等の感想が出され、経営改善について考える良いきっかけとなりました。

ハウス強靱化マニュアル

近年、農業用ハウスに甚大な被害を与える自然災害が多発し、農業経営に大きな影響を及ぼしていることを受け、茨城県では、風速36m/s以上に耐えられる強度のハウス（『強靱化ハウス』）の整備を推進していく方針を打ち出しました。これに伴い、農業用ハウスの補強対策等についてまとめた「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」を作成し、農業者の皆さんに配布するとともに、今後、農業用ハウスの新設や再建等に当たっては、補助の対象を『強靱化ハウス』に限定して支援していくこととしております。

「茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」及び具体的な支援策については県南農林事務所農業振興課ホームページ(右QRコード)等をご参照下さい。



常陸秋そばの種子生産を開始

美浦村の美浦エコアグリクラブでは、令和2年産から新たに「常陸秋そば」の種子生産を開始しました。そばは虫媒花であるため、自家種を使用した圃場が近隣にないことが種子生産圃場の立地条件になります。美浦エコアグリクラブは従来から全量購入種子を使用しており、種子生産に適した圃場を有することから、クラブの若手3名が中心となり、栽培に取り組んでいます。本年は台風の被害もなく、順調に生育しています。



農業三士新規認定者紹介

茨城県では、農業の担い手育成と地域農業振興にご活躍いただく優れた農業者を、農業三士として県知事が認定しています。令和2年度は、管内から農業経営士1名、女性農業士2名、青年農業士1名が認定されました。



▼新任青年農業士

龍ヶ崎市

岡田 彬成 さん

【普通作+露地野菜】

▼新任女性農業士

龍ヶ崎市

横田 祥 さん 本多 恭子 さん

【普通作】 【露地果樹】

▼新任農業経営士

龍ヶ崎市

横田 修一 さん

【普通作】

ありがとうございました!

▼女性農業士

椎野 ひとみ さん (稲敷市)

細谷 成子 さん (河内町)

▼青年農業士

大山 明之 さん (牛久市)

以上の皆さんが退任されました。長い間お疲れ様でした。これからも地域農業のけん引役として、ますますのご活躍を期待しております。